

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表：平成31年3月15日

事業所名 デイサービスセンターあおば

保護者等数(児童数) 12 回収数 11 割合 91.6%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	73%	27%	0%	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18%	73%	9%	・職員の専門性に関しては、研修等を通して高める。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	64%	18%	9%	
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	82%	18%	0%	
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	73%	27%	0%	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	9%	27%	55%	・地域との交流(行事)等を企画・実施する。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	82%	18%	0%	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	91%	9%	0%	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	91%	9%	0%	
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	27%	64%	9%	・保護者懇談会を実施。また、保護者の茶話会等のお知らせがあれば、配布する。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	73%	27%	0%	
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	82%	18%	0%	
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	55%	45%	0%	・ブログの更新を行い、見てもらえるように周知する。 ・自己評価の結果をHP等で発信する。
14 個人情報に十分注意しているか	73%	27%	0%		
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	36%	45%	18%	・マニュアルに関しては、建物内に掲示する。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	45%	45%	9%	・避難訓練に当たらない利用児童もいるため、できるだけまんべんなく当たるように時間設定する。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	82%	18%	0%	
	18 事業所の支援に満足しているか	64%	36%	0%	

未回答 1

未回答 1

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 : 平成31年3月15日

事業所名 デイサービスセンターあおば

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%	0%		
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	17%	17%	67%	・利用児童に合わせたわかりやすい伝え方で提示している。	・バリアフリー化を必要とする利用者は現在いない／バリアフリー化がなされていないので、身体障害者の受入は難しい。 →出来る範囲で整備する。(筆談用道具の設置等)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	17%	17%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	0%		・30年度の結果はHP等で公表する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	33%	17%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	67%	33%	0%		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	33%	17%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	33%	67%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	67%	33%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	67%	17%	17%	・1年を通して利用時間にほぼ変動がないため、内容は個別支援計画によって異なる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	83%	0%	17%	・基本的には1対1のセッション形式だが、個別支援計画によっては、長期休みには複数人で行うグループセッション等を企画することがある。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	67%	17%	17%	・支援前にスケジュールについて相談・確認する。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	33%	50%	17%	・全職員ではないが、主な担当と児発管の間では共有されている。場合によっては、翌日になることがある。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	0%		・徹底はできていなかったため、様式・記入の仕方等を変更した。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%	0%		・モニタリングの日時設定を行い、実施する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	83%	17%	0%		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	33%	67%	0%	・必要に応じて行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	50%	33%	(未記入1)	・医療的ケアが必要な子どもは、現在利用していない。 ・現時点では設備や人的配置等から受け入れが難しい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	17%	33%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33%	67%	0%	・現在、このような対象の方がいない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	50%	50%		・事業所としての機会はない。 →地域の交流(行事)を企画・実施する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	50%	33%	・法人内で実施。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%	0%		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	17%	67%	17%		・ペアレント・トレーニングのお知らせはしている。 ・ペアレント・トレーニングは行っていないが、対応等の相談には出来る限り家庭で取り組みやすい方法の提案を行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%	0%	・別に時間を設定して相談を受けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	33%	17%	・事業所として連続して主催することはないが、保護者懇談会を行ったり、情報提供を行ったりはしている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	17%	17%	・会報等での行事予定は発信していない。	・一斉に保護者へ連絡できるように、連絡用メールアドレスを開設した。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%		

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	33%	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は未実施。 ・招待はない。ボランティアや実習生等は受け入れる体制がある。30年度は移転もあり、地域交流会は中止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と交流する機会を設定する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	50%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に周知していないところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを建物内に掲示する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月避難訓練実施。 	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	33%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルには記載されている。 ・身体拘束を行わなければならないような児童の利用はない。そのため、個別支援計画には記載していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当者がいた場合には、個別支援計画に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17%	83%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーがある児童の場合には、医師の指示書の写し等持参してもらい、対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	50%	33%	17%	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント報告書はあるが、ヒヤリハットはほぼない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等で、ヒヤリハットに当たるものの確認、報告・注意喚起する機会を増やす。